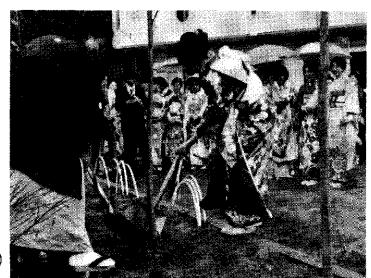
### ↓ 希望に満ちた新成人のスタート! 自信に溢れた明るい表情に町の未来が託される。



### ↓ 総合センタ―広場の庭に記念植樹



が答辞が答ける代表して斉木茂子さん

秋山町長のはなむけの言葉の道を開いて行ってください」→「勇気と自信をもってこれから



### きくはばたけ新成人

※ 月十日、逞しく成長した ※ 五十一名の新成人を迎え ※ 本われました。 ・市川町教育振興会長よ ・市川町教育振興会長よ ・市川町教育振興会長よ ・市川町教育振興会長よ ・市川町教育振興会長よ ・市川町教育振興会長よ があり、最後に成人を迎え を期待の大きさを認識し、 きます。」との誓いの言葉 がありました。 大典は、島田教育長の が、一日一日を大切にしてい を対表して斉木茂子さんが、 きます。」との誓いの言葉 がありました。 、 大山の が、 、 大山の が、 、 大山の 

るく和やかな成人式でした。ーモラスな自己紹介等もあり、明ブルをかこんでの会食と続き、ユ念植樹が行なわれ、その後、テー

昭和53年5月15日発行

第 222 号

新潟県松代町公民館

電話松代 7-2301番

印刷·松代印刷所

### 第2回臨時令

統合中学校 寄宿舎建築工事 峠地区簡易水道 新設工事契約など議決

(53年4月1日から適用されます。)連営に関する事項を定めました。特別土地保有税審議会の組識及び特別土地保有税審議会の組識及びへ 松代町特別土地保有税審議会

◇ 非常勤の特別職の職員の報酬 及び費用弁償等に関する条例の 一部改正について 一部改正について

とおりです。 議決されました。主な内容は次の議決されました。主な内容は次の近郷など6件の議案が付託が招集され、峠地区簡易水道新設が招集され、峠地区簡易水道新設が招集され、峠地区簡易水道新設が招集され、

託設会

0

工事費 建築工事( 質 一億五五〇万円工事の請負契約について代町統合中学校寄宿舎本館

とを報告し承認されまして、二〇〇万円と専決価を追加し、総額をそれぞ額にそれぞいて、七一四額にそれぞの歳入歳出ついて、既定の歳入歳出 

れました。専決処分の承認について、東決処分したことを報告し承認さず決処分したことを報告し承認さ使康保険税条例の一部改正・役場健康保険税条例の一部改正・国民の松代町税条のの一部改正・国民の、公司の、

般会計補正予算もした。

(第8号)

رح

存

知

すか

|民年金

免

 $\Diamond$ 

請負者 日 指加新 『名競争入札』 『名競争入札』 加賀田

₽ (5月<sub>9</sub> Ø です 0 に付し た

請工の2 事費 一切体営 2 土 工 地 て区改 区良 〇〇万円 画事 整理工業(室

で 月 9 日 , 1指名競 南雲文 五、八( 五、八( 競争入札に付 Ĺ

た

設

C X 水 ζ 道建設工事 Ó

請事費者 組万 たでら

日日 まか

も の 5 で月 す 10

○円と高くなりましたが、この不 ○円と高くなりましたが、この不 ②円と高くなりましたが、この不 、の中、みなさんの中に《国民年金保険料を納めるゆとりがない。 年金に加入している人は、将来に 年金に加入している人は、将来に 年金に加入している人は、将来に を納めるのが困難になった場合に は、保険料の納付を免除する制度 は、保険料の納付を免除する制度 は、保険料の納付を免除する制度 なりませんが、その間に失業した なりませんが、その間に失業した なりませんが、その間に失業した なりませんが、その間に失業した なりませんが、その間に失業した なりませんが、その間に失業した なりません。をとえば五三年度分まるま もん。たとえば五三年度分まるま なりません。もし、この手続を怠 なりません。もし、この手続を怠 満納と免除

大違いです

を納めた人と同じになります。)を納めた人と同じになります。)は納すれば年金額は保険料を受ける時に非常に不利になりますが、追納といって、免除を受けた期間の年金額は保険料でから十年以内であれば、その当時の保険料額で納める事が出来ます。(追納すれば年金額は保険料を納めた人と同じになります。(追納すれば年金額は保険料の納ります。この不況下で保険料の納ります。この不況下で保険料の納ります。この不況下で保険料の納ります。 年金権









りができたとき追納(10年前まで さかのぼることができる) すると、保 険料を納めたと同じ年金額になります。

保険料

## 小作制度のあらましと

まか町 ら農 向業 す ケ 会 標間は 準 ( 、 準 作和和 料五五

て り標現 ま 作日 す 作 料 料 が作 ₿ Ø これ あ度法 ŋ がのはば 小 改 大 正 る統 き施和 行四種小 変に五類作 っよ年が料

れ続 へがし改とが統たっ十あ てさ昭あいれ和っ てÎ を法制た `でい律小め さこっとのれれてはで つ前 ŧ は統 昭制 いかし てらた和さ作ま はのが四れ料す もま 、五ての 十作特年のる高 さ継間約と法こ額

こ作を準はた (人) 安 の 豊 小 **、**に一て 農小方い 安とし En 農業委員が 契約を を標 7 はまい当 進 定結以 こに 事 ル たよ者作 めぶ後 た。 た場に これ おから おいて地と作のい 定主い料小て ٤ 5 80 の作 標料新 る小

耕に を農定業 高のす されている。 で記められている。 で記められている。 で記められている。 で記められている。 で記められている。 で記められている。 る制度とあれた。 でる場 害 小は準 あこ合す作 りとはる料農作

たのま適 。表す 広小 す作 よ今る料 う年たは にはめ 改そ 訂の 三済 が年年事 行に毎情 なあに等 わた改の

地 区

### 小作

10アール当り

2

級

地

区 分 (圃場整備完了地区) (未整備地 4 8 0 Kg以上) 4 5 0 Kg

級のこ 地との お表 が県りの 完単で農 し上り区 たのま分 地圃 すは ंद °े 区場 お ż

業

※ 通 利

作距条

ね

※ 照 自

土 条

を路を地

いのいの

う 整

烳

状

う傾

日

5

まれな二

い○-中 Kg 方 v O

然条な

込収利田程が利

うか

見

ず

田以に自を下悪然

見反

れ三

な九件

1 次

整備 事

よ

畜

和牛連産 ル入賞者

(3名)

魚 Ш 市 樋口甚英

允 賞 日堺町井町 ح بخ そじ)

標準小作料 2 0,0 0 0 1 7,000

2 6,0 0 0 1 3 級地 4 級地 4 2 0 Kg 1 4.0 0 0 5 級 地 390 Kg以下) 1 1,000

自はく自の以化が 然見、然高上さ比

4

田程が利る四利田ま収と良然 5 さを度悪用上五用をれもま好条級れ

う生

はれ

っで

性Kg地地用同い

八て

°産○団農利

極見上込反

条いしく 条田 〇条いる四

反のい程も

込収いう度良

、件をKg件

○ 産目 共 に おって とに なって しん は 大 若 の他 に 乳 あ なってに乳用 用録 さは れ肉 る用 と牛

若井 の子牛が分娩されたこの一月既にお用牛、豚も適用牛、豚も適用 れています。小堺惠一さ ます。



### 貸町 有 に牛 つの LI T

下すを達り さの予し、有 った昨の 回 の年貸 は回。年貸忘ら本ま付 れん年では もに昭 二延和 申で〇一 し募頭三十 込集の九七 ん中貸頭年 でで付によ

# 心身を鍛 えよう

# 町 体育協 会

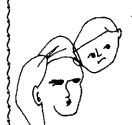
よこのに1の別りれ地親ツ団団 にスっ ツ団団 現増ポた家生 団体体在加 |言族活 が し団 ら域 体と部に、松代 み 団 葉を て ッ その し 体 ` Ф ス J ろ中 てき を 体が親 楽 かあります。この親睦を図っているの種を図っている。 のの種目別年新たに誕生した。 て の てス ために いむ人 む人口が近、ききます。 連絡 体ポ 力 つくり 親 す が近年急 一を図 こいスロースの A 別 た し 図 の な 2 ー ス 2 種 タ 、 び、 つ ツ ポ つ 目 む機会を 激 もい

(町スキー名の側会長は島田健司さんの) (大正医院院) (大正医院院) 会長 は 関 (大) 、夫さ 院ん

院長)

協会長)

ト剣バボ道ド さの れ会理 画さ にあ る Ø 太 ス本 10 平 下野 現 R団体です。 下友の会・南部 ルール同好会・ 卓球! いります。 在加盟し 長事 ポ ミン 球協 て 年 団 ・楽しんで下されて下されて下されます。 ・本本を大誘い 度も ・ツ大会や1 **숲** ۱ 会長、意義員に 五・卓球協会-ン協会・ス 南部 バて 事務局は公民館も及、事務局長が選択しては各種目別団は 友の レい 合っ ·教室が 別協会 ż る スマ 会の スポ団キー体 ラ 。て ッ • 活動 気軽 色主 ツンバールは ~催 協会 クラ**ブ** 協会 ス (内容 とに計よ (۲ ケ



問 答

戸 籍 0) 知 識 (5)

### 除籍 の 閲 覧

戸閲 、籍簿や除 覧住で民 さ悪に れて と聞い をいて W る関 ては 覧する い自 る由がに

答) 由支拒請市 この障むが町住ろあがこが村民 のある場合に限 いある場合に限 とができるのは とができるのは 除れ他は長そ何 がの人 Œ 簿い当執こ閲で な務れ覧も 。理にをの

τ

えられていた。これなりないても従来とかられていた。 なが施行されるいたのが施行される。 なが施行されるいたのがが施行されるのではなくなったのではなったのである。 はなくなったのである。 はなくなったのである。 いてが公い制法区法廃 えも、あ署る度に画第止ならの関るの、はよ整一さおれ 五お十そ こし でる のれこ れる一覧てれ日制 はと ħ プ 個 することが認 

でであるとされている。 では、従来どおりによって認められている。 では、従来どおりによって認められている。 では、従来どおりによって認められている。 では、だれている。 でのるとされている。 でのるとされている。 でのるとされている。 でのるとされている。 でのるとされている。 ど上もは るさ の 要 上るりれ条項 認てなと か土覧 `地制 土改度 なじ要官て覧別地良は

人口のうごき

5月1日現在

1,952 (+

3,778 (-

3.844 (-16)

死亡

転出

滅計

### 戸 籍 の 窓 か ら

四月受付分 (受付順)

おめでとうごけっこん 國家

石口幸男・ 藤ノ木一美子 松代吉野屋札 日美子 一池之畑前坂

内任体

おめでとうおたんじょう

局橋真一 母きえ子 長男 父浩 松代高清屋

ッ・・

高橋弘 美 母フミ 三女 小 は荒 ごだ

**父紘** 

次

母すみる二女 奈良立上ノ山

**父敏**一

父金一 平小松屋

参

小 捓 母玉枝 長男 蓬

`父政秋 代高

石川 大 資 母孝子 長 男

, 父義光

明 男 代義 城屋

母春枝

母叶子 **父健一** 三郎 男 山源左壬 門

上妻聡子 **父三忠** 女 蒲生駐在所

母 喜美工長

お (死亡) 器

室中市中高 樋関 岡沢川村野口谷 リ勝正モ 久充 セ吉義ミ茂好福

九七六七二五八 四八八六八三五 オオオオオオオ

池諏田清松田千 尻訪沢水代野年 

7.622(-22)7 6 6 7 3

2)

6)

出生 転入 増計

女

世帯数

人口男

(4)

### 母子保 健 推 進 員を 紹 ます

て健添た助て推代大はなおのえが産お進町切、赤 わります がでは昭 のなこと 、 婦 51 さ ち児 全 51 さ 部 年 ん 域の ゃ死 事業 す。置和 ځ 皆さんのなるを産み育り 度 カュ です からはは当時はい ī 45 1 っそ て、 年 お から、 協力が 婦部お活 Ø てな 町人落の会だ 医動していため 7 ₺ のけされていた。 でのはでいた。 でのはでいた。 でのはでいた。 でのはでいた。 でのはでいた。 でのはでいた。 に、常にには、 に、常にには、 に、常にには、 に、常にには、 に、常にには、 に、常にには、 に、常にには、 に、常にには、 に、では、 に、 に、では、 に、で、 に、では、 に、で、 に、では、 に、では、 に、では、 に、で、 に、で、 に、で、 に、 に、で、 に、 に、 に て母のけ 子

で す仕 。 事 0 は Ø ぅ なこ

2 < 市 妊 妊 娠婦 窟に をする。 いようにすするの診察を変え ?うけるよっにすすめ と察を受け ఫ్ 早

診を 町 村 対 7象者全員が7か行う妊産 う児

話 番

7 - 9 3 8 1

7 - 9 2 7 9

7 - 7 4 2 8

7 - 7 5 6 9

 $7 - 7 \ 3 \ 5 \ 9$ 

 $7 - 7 \ 3 \ 3 \ 9$ 

7 - 9 6 4 4

7 - 9 7 7 2

7 - 2 6 2 5

 $7 - 8 \ 3 \ 4 \ 1$ 

7 - 9 4 9 3

 $7 - 9 \ 5 \ 6 \ 6$ 

7 - 9 5 9 6

7 - 9 4 7 3

7 - 9 7 6 6

7 - 9 7 9 5

 $7 - 7 \ 3 \ 1 \ 8$ 

7 - 7 2 3 1

7 - 2 1 5 5

7 - 7 1 5 8

7 - 7 2 0 2

7 - 8 6 3 9

7 - 8 1 8 8

7 - 9 1 1 3

7 -8 2 2 9

7 - 8 2 5 7

7 - 8 5 3 4

7 - 8 5 7 4

7 - 2 1 7 5

7 - 8 7 7 4

8 - 2 0 6 2

8 - 4 7 4 4

8 - 4 2 3 1

 $8 - 4 \ 3 \ 8 \ 4$ 

 $8 - 4 \ 4 \ 2 \ 2$ 

8 - 4347

8 - 4 2 8 7

-2067

昭和53年度松代町母子保健推進員は次の方々です。

笑 仲

光子

春子

ミネ

洋子

一惠

カズ

一子

時子

マイ

フミ

繁尾

マス

玲子

イネ

輝子

トシ

ツタ

幸子

マサ

スイ

悦子

春子

京

ミヨブ

屋

又

万

大

南

 $\blacksquare$ 

海

大

林

清

新

水

中

新

5

干

ひがしや

米右エ門

林

入

小堺ラジ店

原のそで

元屋敷

いえの下

吉田屋

かじや

浦

屋

t

蒑

屋

老

下

年

村

水

宅

居

上

屋

み

屋

え

場

8

でんぞう

浦

中屋敷

こうじ屋

Ł

さじべえ

落

代 嵩

刈

沢

Ē

年

尻

沢貞

水政

山敬

平

Ш 秀

老

伏

地

沢

納 宗 一郎

代

貫 栄

田 理

平

生

明 寅

島

野 久

所

会 良 立

濁

峠

木和田原

K

良

春

靖

春

輝

勇

庄次郎

喜久治

片桐山

苧の島

田野倉

あざみ平

啓

政

辰

松

太

菅

田

池

会

清

犬

孟

滝

仙

田

寺

名

儀

福

室

竹

池之畑

小荒

世帯主

隆

賢太郎

喜四郎

力

男

雄

吉

雄

治

冶

作

-- 郎

友

蔵

作

助

哥

吉

年

夫

雨

登美夫

兵 二郎

昌

雄

吉

氏

高橋

重川

髙橋

宮沢

高橋

室岡

寺 崎

若井

山岸

山岸

高橋

石田

本柳

高橋

中村

井上

青井

小堺

小堺

佐藤

中条

山岸

西潟都伊子

佐藤イツ子

谷沢コハル

横尾キクノ

関谷サクヨ

笠原利枝子

山賀千枝子

小野島文子

秋山美津子

若月ナツェ

池田田鶴子

中村美笑子

3 す 況等を役場 る。 だ 著 を訪問 連 一絡する 1 ΰ

役場 する 母母子へほ か、母と家庭 知らせる。 母 子 子に結 関す る 情 情報を 報

っその他、市うすすめる。 るよう ħ た活 親 動や調査他、市町 الأ ・育児等)が効果を上、保健に関する学級(新 給付 対象者に 制 を 度に村 を協長 つ 受講 た該力か 当しら ŋ する 者た依 ます。 ( ŋ 知 げ

く長くないますが W ます。 仕 年 期 Ź 頂 がきた 2 と 性質年 と考え、上なる。 上心 てべて

出

1

週未

で

亡

l

も家族 いまら ŧ っ町 計 す ζ. った はつ 画 又推 かの ŋ 勉 あ 2 りま 強進 τ を員 区 な進んである。 す 勉 強 て心 し いに て るし頂 {₹ 部てい出 会を τ 7

う死ん で 産な `秘 がの 安 密 心 ~ l 絶 て なるよう努力 に守られて いに守られて 力低 さて つい ま重 てま \* す し児 ょやみの

計 出は昨 生 次 年 のの ح 松 ki り町 での 母 o (۲ する

産期 体 産 児 死 重 の産死上 児 で死 1 3 人 5 84 人人 0 人亡 U  $\overline{\phantom{a}}$ (2,50 0 妊 て妊 娠生娠 死 29 れ 4 ŏ 過からの) 多下

工妊 娠 中 17

₺

これ 会訴 くべの す `て 仕 察審査にの 0 を検 不察犯 C 査の不被 起官 入す 会申服害はしの者 立かな する てた うで起 で、 も訴わ検 のしけ察 ŧ 察 もなで官 ځ 審不 あいはは ^査 りへなす

の中衆 検か議検へ処犯察ら院察審分罪 一議く員 員じ 0 で二選 挙 国 で 成選権民 成選作のから、 さばを代で、 れれす表きな をきませ る +者 しす

> 治旨を勧 と 判 し て 断 を は、皆 し犯受た人は ときはいると、 左 る 記 国 への お機尋関 ž 事 検れ件 ねで る 事 の Ě ベ真 す き相もを 7 そ

寫 田地 越局縣 常(○二五) 祭審査会事が 祭用所高田 の一番二六日 一五 <del>多</del> . 五 <del>万</del> 五 <del>万</del> 五 <del>万</del> 元 <del>万</del> 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 (5) 番 支 号

の人のて のの調申旨と査立 4 新越潟市 テ九 大四 方裁

を判している。 罰 事 訴にけ す故 処 心罰を求い ないません。 ないまれる。 ないまで、 ないまで、 察る

に よ を 処 . れ裁 \*\*\*\*\*\*\*

かで ツしカ勢我も 健康 ? ま低の で R 下習に慣 段 す 身 な 慣体は忙げ 毎筋 そよ これな時、手軽なよって身体に負担で動くしてなる時期にしてなる時期にしてなる時期に 日 (を過ごし 軽なスポーク目が増大のでは、 て となり、

### す は ム 11

# ふとん 0

目ざま

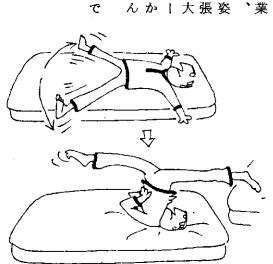
1) 眠い目をこすら向きになる。 びの次 ( は膝をかか えて 横

大井を になり、ヤ を強く抱き、 なり、ヤ し天にをび で力を抜 てに て力を抜いてはたちいながられている方の姿勢から いが いて足を伸ばれた大きくはなってかれ らき膝伸



2)

動の足まがし開と調をす痛ずい を前 調子 ずい両 °いつ て手 もよ 後 できる人 足大をは ぐら ても 12 いまで伸ばしたの字になっていまで伸ばした。 開 < よす 日 た な な な ま る る れ酔にで ば して、りょす。少 す対れ ° 策 ば



さむようにして顔をはるとんに横にな 似になったまま、 て軽 ... 「一 で頭をはなったまま、首の く叩きま



4) 皮膚をこすり合 する。 せること

ら知られ 首すじを 性は **-あなたは** 2 美容上 は有効です ま 以上することです でも二分でも し 毎 ょ温う В τ 何時頃にセットしまか~ う。このうち いる 顔 なるまで手 は Ø もち論、 C 高令者 ځ o 1覚しトリ起き抜け Ó は 平でことくに女 とも



### 11 歳 す 11 体 差

較する ほの動 ど間を 調査 十男 いす 五歳 ど運 て運 \_\_\_ ーセンチも開きず 走幅とび Lのな しかし、筋肉の 五ど間を十のにし ځ かし してい と を き 中 ら二 十 たも 体はて 女とも カ で、 行 し 五差男る十がの人 るは Ŏ で 九 一歳まで 出 す Ø H てい る る ح の人 П いな、令するというが人というない。 ましののせ能人中 で 十人、を同約歳と運比じ三 <u>-</u> 十 力を つま

動 をし -- で いトぼ 旭 ○はま + ルお な四 でオい 歳 多步 W ? 又で ć C る 運 す 。 動し しし 体才 て力 秒も ₹ 千 ま五なので ŧ 五い四層 人十でとオ運 百 い体の Š つメ

# 目立 供

んく うたでたば体 だにこなな後だ、力最 り、性れ、どろけ シの近 、ちょう で足首 筋は事 ャ低 と恐ろ と力、故が体が ン下 グが 低下 力が起こ こっ い が が が さの っう ル 目 低下していてすぐれたられたいたら鎖骨が歩ついたら鎖骨が歩を折ったり、畳の る 立. 身のて ح 5 とを示. ま こカ ح すの な じが すぐ たと ٠̈۰ い折 の て 下 考いで転と よれ 上 りえは

健だたの何てっ 康作う 時いて近 来るの る来年人て走 では 何が とい最が処 し5月 ર્ક 魅力でも誰 親 す 誰もが に でも楽 に でも楽 ラをポ恵 由をソ通 「まむ事走高 ニに始ンじツれ事は

を睦を図 のの小第 場軽が一

健康作りを

走って

事会で

松代マラソン クラブ発足

動 30

30 L

はラに曜

体ン集石 育ニ合じ

雨天 建

務局長い 参なはの 自練由習 で日 っすは堀 ての七川橋橋 で日 ッと郎博徳 れ走二 て目 みで、)

位位 一(女子の部) 十(男子の部) カー(女子の部) 小ますみ

でな

Ċ

生 (小斉石高(福若植高 女林木口野男島月木野子 美直 英の 秀春 の和 由美泉恵部尚雄夫宏部美恵

(2

の 技 し 親

ま向ド

成に発各しン方九小

果まったパド

、と婦

3

とン場か松

\*楽トのら代

バ ۴ 協 n

τ 会五 いな の たで ケ 1 親 ツ善のパ んでも動り、ット

柳三宮石ン柴石ブ

井林口グ田

久夫次雄

グ田口ル

一彦

志雄の

職係康迎てにのポーロポースでいる。 は、増えている。 は、増えての。 は、増えての。 は、単れての。 は、単れての。 のの、単れての。 のの、単れての。 のの、単れての。 のの、単れての。 のの、単れての。 のので、 のので レ人はり ・ 球に連けずも下を関を開代 ・ 一役帯で 1、一巻心記催大 ョル般立ちを ではない がはない がはない ではない では 意関健をれ的カス



### 県民スポーツの日 松代大会は

6月25日です

(第4日曜日)

# 梅雨期 激

毎月10

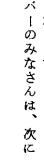
日は

### 交通安全 家庭の 日

大が倍雨万雨 滑月しい近の件の昨りは毎 てかい日近日年 日 イいに数のいののす 交 学五 る か通 事か っ雨 Ď で う て 、後 発 ず てま生梅に五 て 全 国 ŧί すが梅 °危ジ らの 一 一 で ろ 月 約 ズ ろ 月 約 い空 への 増ン との一の ん六

界 っゃ 1 がラ 狭 る マス なる ちうえ τ っり Ō 12 ぃき い氷路雨 面の ほの ど上 が日 危を滑は

のり は 次





# い

### こわ イド ロプ ・ニング〃

夕象い日 ヤでが高  $\mathcal{O}$ ・ハで 走 1 ド行 ロ中プ プレーニ・いちば

をキ とを状うイイ溝 ンん きがこい つ 熊 ど ヤヤ の 坊 グ こ 雨 っきうい ハに 水 が 溝 摩 主 現 わの な で耗 面排がイニ す ドっス ロてキか水激 プし ĺ ら し 浮きれな路 を浮 レま 10 し ニま て ンす いがく 面 グがる りなのタ ,現象し、これ 水 イ 9 をヤ 5 ょタタの

いう なく 状 な車 りのな熊 ま方ったな り。一色変える り、ハ る ンプ ځ ドレ ヒル

キ

いニ

よう

12

l

τ

增 5

認る (1) 意事項をもういま

- ŋ Ø う 車間 ŋ 距離 もグ を十 ン 分 に皮度
- の で W パーは に注意 パに 場の ī ま 滑 9 4 1 うす。く な車 るの
- そ l ワ ŀ ታነ 12 τ お

いう よど 十分 デ て よう コ視 いかの コがにい `ほう 識 \$ 狭 しか 夕 ·歩行者 ま ( < 1 ₽ なし 点 t Ø ょ検 空 う - 気圧の 運み有め 怠は作 〃断に道 ち動 つ路 Ď な ょは

すなき 。り始

まかきレ

対ち ( で ŋ ŧ 11 ょ見 う込見者る。み込のた 転判無 はし 絶がいの

メル合

0

」の

七ト場

速

雨乾

の水高分れ雨 まてが 張も速気まのやす無ポ界 りれ道をい降めが意コが ょな耗 ういし っ ع °かてあなで けしは てじ 先め ッい `ラだ とプいフジさん くサかァー たいいか、これである。 ラジェート ファン・ が、ファン・ が、ファン・ **にイ** 注ンタベタ す者 意がイル「 ゜は

険 深 生 耗 ス で が し が ピ 大きく す **-** ⋪ ° te す F - を出して ン チくらの 空気 いの 圧 いニ が水 て、 が ン いたま グ い夕現 ばりほ 1 象 んの ٤ ヤは〕 危水 発

ある 万る矢と一の十の て キ ľ す 口 う ゚゜で も も発生が するな 可れ 能は 性 が時

大 起 丰 ア プあ ク万 ح で しレわ速 セ できる。 N ŋ 0) を こ 戻 の を 車 牛 脱 Ø を 出 コかン し現 ( ځ 後な ンけドし る ١ IV ŋ ま エが を しょ まっと ン 起 [横 ょジき ばす ŋ ~ルギョ b うンた をべた ゙゜ブ ブく ځ Ò 失りり  $\nu$  $\nu$ き W を | は

ーキは、停止距離、を

キ運車 を転は の距であて 六十。降いたな だなト 踏 者急 四 かでた 考えて メバ で いルピ 十路況夕 離車 み がに さ高速 一が停 + ₺ ↑危は の 一面はイ ルキ り路 キベ ご面 の距 ドメ で、 悪ヤ 距 °¤ □ て停と、 X で は面 険止 ブ 止距離)、 道 す で をま が離 じで  $\nu$ 。離はト時な摩 が、ル速り耗 を者は、 Ø お路 感 めは新ま距雨 1 n ۲ ルよそ 停 0 品 し離の キ じま で七 うし 止 なな ·四 要 は・タ がてせ ょが降 いん時十雨 十九イ で実かん てと うどり を 走に、にがらず °れは 五メヤ

くじ

らめ

いの

時連路乾

う面

は七キ場はも さ止メロ合じっ っそ **卜八時** 6 61 のはめ ع しルメ 速 の状 7 ス \_ の と速キのいし 五六口降れ ま五十 車十十のりは、 まずも

ょい要ロキうかでだロ にゆなる さく と路 ロれ と百と ° (C ス 面 た ع かまり縦の ō 日 摩え、 ッ滑 険こ かれし プ ŋ さ が 、つ降 がト 発横抵り 生滑抗は う雨 しり がじ おの 分日 やないめ ちは、 かと離速速で すど かと 41 でる が百八は 状いん車 しと必キナ 態わ小輪

う車 に間 Ġ 4 し距 た離は停 いを 控止 元記 ものる こに 8 とを忘 、よく Ū 考 れてえ

### 文化遺産を後世に

民俗資料を収集しています

だ 私 し、 の て的つ 産民 て 生か業俗 い活わ経資 ま様り済料 祖先 に乗用 . 式 や 風 の進展、この収集を とともに が日常生活の す れて行 てきた ح 行こう れ俗 れにともなって、町内の伝統、町内の伝統のも、町内の伝統のもした。 としてい 俗資料々 もなって

収集を行うものらの貴重な文化 ます。も急速に 伝えること 化と Ø 目遺き的産に で目 す で民民を保 。で 俗資し ŋ \*し \*し \*こ 料 の永れ

まみすな まんっ すかて てこ ž Ó 6 はの **、**〃 次民 Ø < の資 目的 収集 要領で 力をおる するこ 料 " 町民 Ø 願解 ع かいた の集 しみに

### 収 集 方 法 は ت മ ょ う

さか除・役あだ ٠ いなな家場る。 き、町民 のから ō بح 寄 思お築 出は 贈 ・じ 29 • 向 たに 改い連  $\mathcal{C}$ さ といただ! 築 τ b 連絡 へ、ある 受領 ける をな 協力 ただ し物 ま W すけ資 ては は を く ど え だ う 掃 °れ料い ばがた

### ಭ どん な 資料を収 く集する Ō か

農具類などで、行事などに用い とり 事 衣 0) か わ て からないもの。からないもの。とで、町民のの長地解するためられ 飳 生業 たのたべため生衣信 定活服の へくう 家 年 こ つ 具 中

## わ は

会な へい民 いことがありまれの収集に の収集に ださ いし 育わ 委員

# 「雪中鍛練俳句大会」 ぶみ俳句会

雪疲れ 日脚伸ぶ ŋ とて う 支山に開 三月三 卵 酒 の向け 飲 かれ春 雪 のいば山日 女かなて眼鏡 他於 て炉 石 Ш の先平 なふ赤 生旅 々選館 < ع

二難マ人のン 立日ト ちに着 一雪で 人見尼 一雪 座の僧 れ客 の顔 るも 官女かのおた な 4 か 水 に花

淡 久 雪 々 永き のに 日 青さ嬉 の 眉 宿 (८ とまり 直と ī き雪 な 7 ŋ 離迎か τ か 酒 をえな 善酌 む

わ

き藝月さ女欠 らのけ ぎずがる 鞴生 泉のと弾 炭のる 春浅 区艺 お雪 い九 し尺 て 舟

の入 明口 る庫 さ」裡 甦だ るネイナ 12

梅雪一深

屋の

寺

部

丈の (越す雪 一除け開くこう 納に 立. 屋 大元 F 歩

身山

りたる 冬芽 Ø V 3: ŧ ほ の枯 ぼ 明の水

と 手 折 電柱も半ば 埋  $\aleph$ て雪

紅 茶

凍

渡

り子供等喜

K

と橇

す

×

ŋ

家に雪見 0 客 12 雛 Ø 宴  $\nabla$ 石

埋

n

本部二月果

豪雪

0

対

策

し窓の 板

<u>二</u> ン 月 ( 枚 は ず 水

客の 席 び J うぶを立 て て大薬屋

雪折 れ の 青き 枝杉落葉

友見

海う

吹雪

Ø

町

をパ

ス

(2

ゆれ

Ŧ

代

代

越 0 Ш // 雪深 きく

水取

ŋ

仙

### 句

桜

千年

茶

水

酒 0 酔花のべ ン チに 深 眠 n

で

ひこゆと今朝の

電

話も花

いのこと

夜桜や満月上げ Ź Х の 波

散る花 (۲ 池 0 白鳥 羽 根ふる ð

花曇り遂に ・雨来り け ŋ

廃 屋の 庭に 変らぬさくらか ጟ

だれ れとなく 山さく

カュ

美し

ع

b

Ш

さくら二夕又道辺

10

松もあ

n

 $\nu$ ス ラン二階 に干 物 Щ 笑ふ

ス ١ 解て 気 安に春の 12 た つ

俳 旬

松代 本 常 仙

小 春 日に梅咲き老鶯 宿 りきて

精す一輪咲きし雪椿

Ш 毛欅芽ふ く単 伝 山 Ø 緑 濃 l

小 春日 Ø Ш 木 **う** つきの 木霊し τ

雪深き出稼ぎ親子作文交

新 刊 図 書 購



す度 ° (C 購入 整

センター内公民館図書係書の購入希望を承りを伸っただくため、次のしていただくため、次のしていただくため、次ののならの関連を選定中ですが、ののはいいには昭和53年度のはいいにはいいのではいる。 いタ の図 C 備 保まで申出 にて に 町総合 とおり図 きを愛読



### た税 金 は

**'**5 行体よっている 行体 ていに適

私たちが健康で ろいろな活動を行 ろいろな活動を行 ろいろな活動を行 れらの活動を なが分担し合って なが分担し合って ながかなりませ うせてちん わんいみ必 け°かん要

### ○%が 九度 百の国 五一の す 五一の十般活 金門でまる。金剛を表 算は三十 カュ なこわの れぅ れています。 つちの約六 -四兆二千

### 千円あた 4) で は

住宅や 任宅や道路などの整備のために二百三十七杯たちの健康や生活を守るため に九に七め 円に 闬

教育や科学技術 Ø 振興の の百た 百た大め

方 財 政 0 援 筋 Ø た め 二円

国国 債 土 の防 償衛 還の やた 利め 子に 支 百に Ø 四に円 五一 再円

W ろ **(**) (

0) 他 ろ な Ø ため ti + ら三円

(関東信:

越国

|税局

広

### 買 し売のは 店

の税万費 税 て た 15 は 六 量 昭 が 、あ (和町おな は%約千 一本販 52 におた 千で売年納よが [] あ 他た八、本度入 そ吸 のり五町数のされている方面である。 町町す万納は代て °円入約町い十 にさ <u>-</u> の なり町でれた消費 す銭本 °のに 消つ 税費四消 費い

っと し費 ح すの 村村 ので も買 の 1 にま なす

### 電 話 エ の注 文は お 早め

工日等 9 又新築、 ています 一事日は毎 位を新 動 築 日は毎週水曜日と金曜日に決の余裕をみてご連絡下さい。動かす時は、できるだけ十五衆、改樂等で電話機、電話線 ます。 。五線

てもらってて気屋さんに、電話気を い話の際 配は 管工事を

セン

g

t

兀

Λ

池尻

### h 話 加入 か ? 者 の 名義は ŋ

話下印お届こ局さ鑑り出の っ義 のてが加 両(七一二二○○番さい。詳しいことは塩をご持参のうえ手りますので、戸籍謄りますので、戸籍謄 場合、 お亡入 たりませ くなら 名の名 な名 電てとての

### 番号変 更 の お 知ら せ

た三 電 十五 日 il番で 一二年 をの九 お間月 知にか ら新ら 世設五 しま 変更され

吉 松池若滝小 福座市柴前若 次 職代田狭沢沼 田間川田田井 光員分 昭武幸作道経栄 屋利 学待遣晃夫利夫業路夫治茂給晴 所 松 油 七七 七 七 

七七 1-二〇九四 1-二一九四 七七四三七七四

待機所 工学待 寮 <u>Tī.</u> 云

· 善 《 宗 松 七七七七 

> 松代 農協 五三二一号 云三二一号 号号号号 七七七七七 四四四四四  $\Xi\Xi\Xi\Xi$ 三二二〇五天王天 0 0 0 0 0 0 0 0

松 修 代 理 七七七七七七 ĪĪĪĪ 1 八八九七七 九 二一四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二四七二二二七二二二七二七二< 三二二 名蒲海滝犬田 平生老沢伏沢

o 変更

9

力

f 小小奴松米村柳小小小相 堺堺奈代持山 堺堺堺沢 八八七七七七七七 二 四 二四八八〇五三四 室 蒲 《 儀 蓬 野 生 》 明 平 "

郎郎所 八八八 11 11

### 月 日 $\overline{\phantom{a}}$ 1 日曜日

大 午 字前 儀 四 明地内1時半~ 前 :七時半

御希今 下 八加さ望年のの °方探 はおさその場合の い催 のし うま えす 御の

致谷参 ま郎申 すへ込 ⁰電み 話は か は松 が代 き郵 で便 お局 ね内

自然愛護会)